

渋川市議会議長 都丸政行様

平成 26 年 5 月 20 日

会派調査報告書

会派「すばる」代表 高橋 敬

渋川市議会議長 都丸政行

会派の調査結果を下記の通り報告致します

記

1 調査項目

- 〔1〕 合併特例債を活用した庁舎建設について
- 〔2〕 観光行政について

2 調査の経過

沖縄県うるま市と、糸満市について調査することに決定して高橋敬、山崎雄平、今井五郎、狩野保明、石関桂一、議長都丸政行の6人が平成26年5月13日に出発し5月15日に帰着した。

3 調査の概況

【1】 沖縄県うるま市

ア) 市の概要

うるま市は人口 120.686 人、世帯数 47.694 世帯（平成 26 年 4 月 1 日現在）面積は 86.14 km²。位置は那覇市から北東へ 25 km、沖縄本島の中央東海岸に面しており東に金武湾、南に中城湾の両湾に接している。東南に伸びる半島部の北方および東方海上には有人無人を含めて8つの島々があり、このうち5つの島は海中道路や橋によってむすばれている。

肥沃な農業地帯と県産業振興の拠点となる中城湾港新港地区(国際物流拠点産業集積地域含む)。及び大型店舗等を含む商業地帯等で形成されている。平成 17 年 4 月 1 日に旧具志川市、旧石川市、旧勝連町、旧与那城町の 2 市 2 町が合併しうるま市が誕生しました。「豊かな自然と人が調和した健康で心豊かな活力ある歴史と教育文化のまち」の実現に向け、沖縄県の中核都市としての発展を目指している。



イ)合併特例債を活用した庁舎建設について

[庁舎建設の経緯]

平成 20 年 3 月

議会において、市長（当時）が統合庁舎の必要性について答弁。

うるま市統合庁舎建設検討内部調査委員会とその事務局を企画課に置くことを決定。

平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月

うるま市統合庁舎建設検討内部調査委員会開催

平成 21 年 3 月

内部調査委員会での検討事項をまとめ「うるま市統合庁舎建設の検討結果報告書」を庁議へ報告し、承認。統合庁舎の建設に向け検討に取り組むことを庁議決定する。

平成 21 年 9 月

「うるま市統合庁舎建設委員会」の設置に向けた、附属機関設置条例の一部を改正する条例を提案し、可決。

平成 22 年 1 月

統合庁舎建設委員会委員の選考委員会を開催し、15 人の建設委員が決定。

平成 22 年 2 月～平成 23 年 3 月

うるま市統合庁舎建設委員会の開催

第 1 回 委嘱状交付、諮問、委員長、副委員長の選出

第 2 回 今後の進め方について（審議方法、スケジュール等の確認）

第 3 回 建設場所、建設方法、コンセプトについて

第 4 回 先進地視察

第 5 回 導入機能、建設規模について

第 6 回 外部意見報告、建設方法、答申案について

第 7 回 既存庁舎跡利用、基本構想案について

平成 23 年 3 月

うるま市統合庁舎建設についての答申を受ける

うるま市統合庁舎基本構想 策定

平成 23 年 4 月

統合庁舎の建設に向けて、庁舎建設室を設置し、本格的に事業をスタートする

[庁舎建設の状況]

| | | |
|---------|----------------------|------|
| 平成 24 年 | 3 月～平成 24 年 8 月 | 基本設計 |
| 平成 24 年 | 10 月～平成 25 年 8 月 | 実施設計 |
| 平成 25 年 | 11 月～平成 27 年 3 月（予定） | 建設工事 |

◆ 総事業費 約 47 億 6800 万円

うち合併特例債活用額 42 億 4100 万円（平成 26 年 3 月現在）

◆ 新庁舎の概要

| | |
|------|-------------------------|
| 施設名称 | うるま市庁舎 |
| 施設用途 | 市役所庁舎 |
| 主要用途 | 事務所、自動車車庫 |
| 構造 | 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造 |
| 建築面積 | 4,856.92 m ² |
| 延べ面積 | 13,127.6 m ² |
| 規模 | 地下1階、地上3階 |
| 高さ | 16.7メートル |

◆ 施設の主な特徴

- ① 現本庁舎と併設する統合庁舎として整備し、新庁舎へ市民利用頻度が高い窓口機能を有する部署を中心に配置。
- ② 1階部分を現本庁舎と渡り廊下で繋げることで、建物の一体感を持たせるとともに、市民のアクセス性向上を図る
- ③ 地下駐車場の空間を有効活用した柱頭免震構造を採用。安全性と防災拠点としての機能を確保する
- ④ 自然換気や太陽光、雨水、井水等の自然エネルギーの活用、省エネルギー化を図る
- ⑤ 外周に回廊を配置し、出入り口を東西南北に設けることで、どこからでも入りやすく、外部と一体となった庁舎として整備する。

〔合併特例債の活用〕

本市における合併特例債の活用限度額は、454 億 9,060 万円で、本庁舎建設事業に係る活用予定額は 42 億 4,100 万円を予定。

〔今後の課題〕

- ① 新庁舎建設工事の工期延期
- ② 現本庁舎の回収設計に伴う、改修工事の財源確保
- ③ 新庁舎及び現本庁舎への移転計画・移転時期
- ④ 庁内備品の有効活用

【2】沖縄県糸満市

ア) 市の概況

糸満市は、人口は 59,618 人、世帯数は 23,558 世帯（平成 26 年 3 月末日現在）面積は 46.64 km²、位置は沖縄本島の最南端、那覇から南へ 12 km のところに位置し美しい珊瑚礁の海と砂浜のある海岸線は魔文仁の丘へとつなぎ、北は豊見城市東を八重瀬町に接し、西と南はそれぞれ、東シナ海と太平洋に面

している。

太平洋戦争における沖縄戦では本島の最南端に位置するこの地域の多くの住民が追われ、戦渦の犠牲となった。この戦争により人口が激減したため終戦の翌年（昭和 21 年）に真壁村、摩文仁村、喜屋武村の 3 村が合併して三和村となった。昭和 36 年には琉球政府の市町村合併促進に合意し、漁業と商工業を中心とした糸満町、農業地域である兼城村、高嶺村、三和村の 1 町 3 村の合併による新糸満町が誕生した。さらに昭和 46 年 12 月 1 日には、市制を施行し商工、農漁業等の半都市形態を形成し、人口の増加と共に、発展してきた。

昭和 59 年には、約 269ha の広大な第 4 次埋立事業が竣工し本島南部の中核都市として新しいまちづくりが進められた。さらに近年約 50ha の南浜埋立の竣工により新生潮崎町が誕生し、同潮崎町に平成 14 年 3 月に市庁舎建設を終え平成 24 年 3 月には国道 331 号糸満道路が開通し、那覇港・那覇空港等の物流拠点や平和記念公演等の観光施設へのアクセス性が向上し今後の地域振興への期待がもたれている。

イ) 観光行政について（4 大祭り）

| 年 度 | 平成 24 年度 | | 平成 25 年度 | |
|---------------------------|----------|-------------------------------|----------|--|
| | 来場者数 | 決算額 | 来場者数 | 決算額 |
| 糸満ハーレー 旧暦 5 月 4 日 | 35,000 人 | 6,398,782 円 | 35,000 人 | 6,440,189 円 |
| 糸満ふるさと祭り 7 月連休 | 32,000 人 | 6,612,266 円 | 49,363 人 | 6,642,260 円 |
| 糸満大綱引き 旧暦 8 月 15 日 | 35,000 人 | 5,086,860 円 | 33,000 人 | 5,377,16 円 |
| 平和の光 12 月第 2 週～1 月 3 日 | 76,184 人 | 24,250,607 円 (9,984,400 円) | 79,140 人 | 27,860,676 円 (12,759,500 円) ()内は入場料 |

① 糸満ハーレー

この行事は 大漁と航海安全を祈願するウミンチュ（漁師）の祭りであることから、現在は、漁民の代表である糸満漁協の組合長が行事委員長を務め、糸満市や地域の人々の協力の下に執り行われている。

② 糸満ふる里まつり

ふる里祭りは「ふるさと糸満」の素晴らしさを市県民及び県外観光客が感じることが出来るようなイベントを目指して開催しており、糸満市内各字の伝統芸能・文

化を一堂に会し、更には、知名度の高いアーティストを招き入れ世代を超えた市民文化交流の場を提供している。

③ 糸満大綱引き (第18回ふる里イベント大賞で大賞受賞)

糸満大綱引きは豊年満作と大漁祈願・家内安全・無病息災を祈る神事で、南北に分かれた雌雄の綱の結合によって、実りを予祝し勝負の結果で吉凶を占う行事。綱作りに用いられる稲藁は総重量で約10トン、綱の太さは結合部付近が最大で直径1.5メートル、長さは雌雄合計180メートルにも及び県下でも最大級を誇り古式伝統を遵守し、毎年旧暦の8月15日に行われている。

当日は、国道を規制して大綱作りが行われ雌雄の綱を当日作り上げ、大綱引きの前に「道ズネー」と呼ばれるパレードが開催され、旗頭を先頭に1000人余の市民が参加し、伝統芸能等を披露しながら約1kmを練り歩きます。「道ズネー」を終え大綱引きが開始されると、南北両陣営から「イチマンマギー」「マカピチャーン」という糸満の伝説上の人物に扮した若者(シタク)が戸板に担がれ登場し綱の中央で対峙して、それぞれの陣営の士気を高め綱引きが開始される

④ 平和の光

平成25年度は12月14日から1月3日の期間「第15回いとまんピースフルイルミネーション」「平和の光の柱」が開催。「いとまんピースフルイルミネーション」は沖縄戦終焉の地の糸満市から平和への祈りをイルミネーションに託して世界へ発信するイベント。